

# シエラレオネ共和国話題集

## 【国名】

- 「ライオンの山」を意味するポルトガル語に由来する。15世紀中頃にポルトガル人がフリータウン周辺の丘の形を「ライオンの山」と表現したという説やそれ以前から現在のフリータウン周辺が同様の名で呼ばれていた等、諸説ある。

## 【国旗】

- 緑は天然資源を、白は団結と正義を、青は天然の良港でもある首都フリータウンとその利用を通じた世界平和への貢献を象徴する。



シエラレオネ国旗

## 【国土】

- アフリカ大陸西部大西洋に面する沿岸国。面積は北海道と同じ大きさ(約7.17万km<sup>2</sup>)。首都はフリータウン。人口は約797万人。



## 【風土・気候・産業】

- 北東部のギニアとの国境地帯には山脈が広がり、中央部は起伏に富んだ高原で急流が多い。西アフリカ最高峰のビントゥマニ山（1,948m）は北東部に位置する。国全体が熱帯雨林に覆われ高温多湿の典型的な熱帯雨林気候。年間降水量は多いところでは5,000mmにも達する。米が主食で、1人当たり年間消費量が100キロ以上と、サブ・サハラアフリカの中で最も米消費量が多い国の一つ。
- プランテーションで胡椒、コーヒー、カカオ、パーム油などが栽培されているが主食の米は自給できておらず、輸入に頼っている。鉱物資源はダイヤモンド、鉄鉱石、ボーキサイト、金鉱石が産出され経済を支えているが、内戦下では密輸出が横行し、財政赤字に拍車をかけた。主要鉱山は中国やイスラエル等の外国企業が経営している。

## 【内戦の歴史】

- 1462年にポルトガル人が上陸、1500年代よりポルトガル、オランダ、フランス、イギリス等が黒人奴隷貿易の拠点を設置、1787年にイギリスで奴隷貿易廃止促進協会が設立され、黒人移住希望者のシエラレオネへの入植が開始。1896年にイギリスの保護領となる。1930年頃ダイヤモンドの鉱脈が発見され、1950年代にダイヤモンドラッシュが本格的に始まる。
- 1961年イギリス連邦の一員として独立するが、クーデター等の政治的混乱が続く。1991年からは、ダイヤモンド鉱山を巡って隣国リベリアの勢力も巻き込んで約10年間に亘る内戦に突入。内戦により5万人が死亡し1万人が手や足を切断され、100万人が故郷を追われた。

## 【紛争ダイヤモンド】

- 内戦中、反政府軍の武器調達の財源として取引されたダイヤモンドは「紛争ダイヤモンド」、「ブラッド・ダイヤモンド」と呼ばれ、ダイヤモンドに煽られたアンゴラやコンゴ民主共和国、リベリア、シエラレオネの紛争で死亡した人々の数は、370万にも及ぶとされている。
- 2007年4月に公開された映画「ブラッド・ダイヤモンド」（主演：レオナルド・ディカプリオ）は、1991年に始まったシエラレオネの内戦を描くことで、ダイヤモンド産業が内戦の資金源となり、貧困と暴力を招く要因となっていることを訴える内容となっており、紛争ダイヤに目を向けるきっかけを与える話題作となった。

## 【西アフリカ最古の大学】

●1827年に英国は後に国立シエラレオネ大学となる学校フォーラー・ベイ・カレッジを創



設。同大学は西アフリカ最古の大学で、トニー・ブレア元英首相の父親が教鞭をとっていたことでも知られる。フリータウンはかつて「西アフリカのアテネ」とも言われ、同大学は地域の多くの政治家を輩出した。

## 【アフリカで4番目に平和な国】

●毎年、豪州のシンクタンク（Institute for Economics & Peace）が163か国・地域を対象に分析し、各国がどれくらい平和かを相対的に数値化している「世界平和度指数（Global Peace Index : GPI）」の2021年版で、シエラレオネはモーリシャス（全体の28位）、ガーナ（同38位）、ボツワナ（同41位）に次いでアフリカでは4番目に

平和な国と評価されている（同 46 位）（日本は 12 位）。

## 【シエラレオネで30年以上宣教活動を行った根岸シスター】

- 「御聖体の宣教クララ修道会」のシスター、根岸美智子さんは、シエラレオネにて通算30年以上にわたって宣教・支援活動を行った。
- 根岸シスターは内戦が激化した際に、一時国外退避を余儀なくされたものの、内戦終息後、現地に戻り、2013年11月に逝去されるまで、シエラレオネ西部のルンサの町にある Our Lady of Guadalupe という学校の校長を務めた。
- シエラレオネでは2021年6月時点で、同修道会の日本人シスター2名が宣教・支援活動を継続している。（了）